

〔全体の評価講評：通所介護（デイサービス）〕

《事業所名：宮前ふれあいの家》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	月1回、「プログラムミーティング」を実施し、利用者が楽しくなる企画に創意工夫を凝らしている
	内容	活動プログラムは充実している。フロアごとに月1回、「プログラムミーティング」を実施し、利用者が楽しくなる企画に創意工夫を凝らしている。回想法を取り入れたり、音楽療法士を講師に音楽療法を提供するなど専門的なセラピーの導入も図られている。釣り堀、スーパーへの買い物、飛行場、美術館などへの気分転換を図る外出活動も頻回にある。また同一法人内同一エリア内他通所介護事業所と合同で運動会、餅つき大会、中華街への夕食、東京湾を豪華客船でクルージングなどイベントの豊富さは特筆に値する。
2	タイトル	利用者個々の1か月間のバイタル表を配布するなど、居宅介護支援事業との連携を密にとっている
	内容	18か所の居宅介護支援事業に直接訪問したり、その他50か所の居宅介護支援事業所にはFAX送信・郵送などにて、サービス実績表・「空き情報」・目標達成状況報告書・「宮前ふれあい新聞」・バイタル表を配布している。利用者の1か月間のバイタル表をケアマネジャーに配布している。利用者の健康に関する貴重なデータで、きめ細やかな配慮である。
3	タイトル	多岐多様な職員集団で、職員一人ひとりの個性を運営に活かしている
	内容	事業所責任者は常々利用者にとって楽しいデイサービスにしていくためには、「職員自身が楽しんで仕事をしていくことが大切である」ことを伝えている。さらに「新しいことに挑戦して欲しい」とも訴えている。一方、職員の年齢層は20歳から80歳まで幅広い。事業所内に音楽クラブがあり、イベント時に演奏や合唱を披露している。その他、職員が台本をつくり、演劇や寸劇を披露したり、落語、三味線、フラダンスなどの発表も行っている。多岐多様な職員集団で、職員一人ひとりの個性を運営に活かしている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ケアマネジメントのより一層の適切な運営管理が望まれる
	内容	担当ケアマネジャーから提出してもらった「利用申込書」を基に、初回利用前に生活相談員が利用者の自宅あるいは病院等を訪問し、入手した必要な情報を「相談員ノート」に記載し、「通所介護計画書」を作成している。その後、「目標達成報告書」にて1か月間の利用者のモニタリングを行い、必要に応じて計画の見直しをしている。今後はアセスメント、計画書作成、モニタリング、評価、再アセスメント、計画書更新というケアマネジメントの一連の流れが適切にまわせるよう職員への指導、マニュアルの作成等が望まれる。
2	タイトル	「ひやりはっと事例」や事故報告書の集計・分析など、リスクマネジメントのさらなる改善が望まれる
	内容	状況報告書やひやりはっと事例が発生した場合は、掃りのミーティング等で今後の対策などを検討している。その際にマニュアルを修正する必要がある場合は、職員の意見を募っている。大幅に変更がある場合は、全体会議にて検討し、改善につなげている。ただし、せっかく職員からあがってきた「ひやりはっと事例」や事故報告書について改善策の立案、職員への周知までは行われているが、その後も集計・分析、改善策のフォローが行われていない。これらの点に関してリスクマネジメントのさらなる改善が望まれる。
3	タイトル	内部研修の計画的な実施が望まれる
	内容	新任職員の育成に関しては、法人本部・通所事業部内での研修に派遣される他、事業所内では教育担当を配置し、6～9か月間かけて仕事を取得する仕組みで、新任職員育成には力を注いでいる。また現任職員に対しては必要に応じて、法人本部・通所事業部内での現任者対象の研修や外部研修へ派遣している。しかし、今年度、上半期は事業所内研修が実施されておらず、1月の事業所責任者の交代後、直ちにノロウイルスの研修を施設全体で実施している。次年度は内部研修の計画的な実施が望まれる。